

別紙 1

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	北上市立黒沢尻北小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	1	25	39
児童数	127	129	140	140	140	131	4	811	

研究の概要

1. 研究主題

『みつめ たかまり かがやく』  
～国語科・算数科における個に応じた指導の工夫と改善～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 第1～6学年 国語科、算数科  
学校全体として、学力向上への取組を深化させるため、これまでの研究の成果と課題を生かし、最も基本的な教科である国語科と算数科について実践研究を積み重ねていきたいと考えた。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 個に応じた指導のための学習材の工夫 - 国語科・算数科の指導を通して -</p> <p>仮説 国語科・算数科の指導を通して、次のような手立てを工夫すれば、児童が基礎・基本を身に付け、学ぶ喜びを感じ取り、自立的に学習することができるであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の確認</li> <li>個々のレディネスの把握と個を生かすための学習材の活用と工夫</li> <li>自立的な学びのための学習習慣の形成</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本を明確にした授業の構想及び展開</li> <li>効果的な学習材の工夫と活用</li> <li>個に応じた指導及び指導体制の工夫</li> </ul>
--------	---

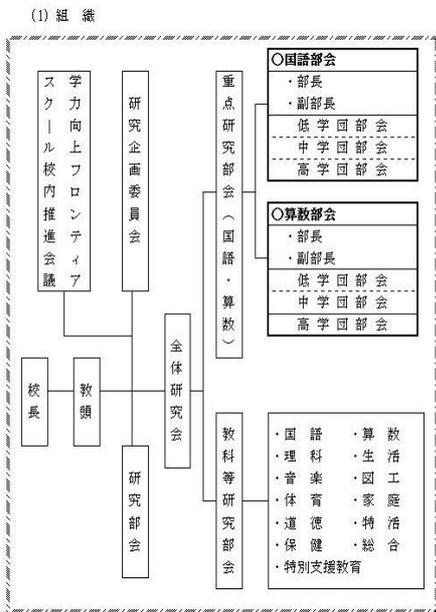
平成15年度	<p>テーマ 『みつめ たかまり かがやく』 ～国語科・算数科における個に応じた指導の工夫と改善～</p> <p>仮説 国語科・算数科において、次のような個に応じた指導を工夫・改善することによって、児童一人一人が確かな学力を身に付けていくであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みつめ(個をみつめる)～一人一人の児童が学び方を分かり、課題意識をもつことができるように、個々の実態を的確に把握し、指導に生かすこと</li> <li>たかまり(個を生かす)～一人一人の児童が、仲間との学び合いを通して自分の考えを深めることができるような学習集団の在り方や指導の在り方を工夫すること</li> <li>かがやく(個を伸ばす)～一人一人の児童が、分かる喜びや拓けていく自</li> </ul>
--------	---

分を体感できるような指導の在り方を工夫すること  
 研究内容・方法  
 ・ 学び方を分かり、課題意識をもつことができるような指導の在り方の工夫  
 ・ 仲間との学び合いをとおして、自分の考えを深めることができるような学習集団の在り方の工夫  
 ・ 分かる喜びや拓けていく自分を体感できるような指導の在り方の工夫  
 前年度までの成果と課題を踏まえ、個に応じた指導の視点をより明らかにすることによって、研究主題、仮説、研究内容等を改善した。

テーマ  
 『みつめ たかまり かがやく』  
 ～国語科・算数科における個に応じた指導の工夫と改善～  
 仮説  
 国語科・算数科において、次のような個に応じた指導を工夫・改善することによって、児童一人一人が確かな学力を身に付けていくであろう。  
 ・ みつめ（個をみつめる）～一人一人の児童が学び方を分かり、課題意識をもつことができるように、個々の実態を的確に把握し、指導に生かすこと  
 ・ たかまり（個を生かす）～一人一人の児童が、仲間との学び合いを通して自分の考えを深めることができるような学習集団の在り方や指導の在り方を工夫すること  
 ・ かがやく（個を伸ばす）～一人一人の児童が、分かる喜びや拓けていく自分を体感できるような指導の在り方を工夫すること  
 研究内容・方法  
 ・ 学び方をわかり、課題意識をもつことができるような指導の在り方の工夫  
 ・ 仲間との学び合いを通して、自分の考えを深めることができるような学習集団の在り方の工夫  
 ・ 分かる喜びや拓けていく自分を体感できるような指導の在り方の工夫

(3) 研究推進体制  
 ア 研究組織図

イ 学力向上フロンティアスクール  
 校内推進会議の構成員



- ・ 校長
- ・ 教頭
- ・ 教務主任
- ・ 研究主任
- ・ 研究副主任
- ・ 国語部長
- ・ 算数部長
- ・ 父母と教師の会会長
- ・ 教養委員会委員長

学力向上フロンティアスクール校内推進会議の構成員を見直し、父母代表に教養委員長を加え、組織が機能するようにした。

今年度から、特別支援学級が設置されたことから、研究組織の教科等研究部会に特別支援教育部会を位置付けた。

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- ・ 研究主題に基づく授業実践を通して、個に応じた指導の視点を明らかにするとともに、授業改善に取り組むことができた。その結果、児童一人一人がめあてをもち意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。

- ・ 平成15年度岩手県学習定着度状況調査結果より

#### 国語科

第3学年	県平均	77%	本校平均	82%	(+5)
第4学年	"	77%	"	78%	(+1)
第5学年	"	69%	"	74%	(+5)
第6学年	"	71%	"	73%	(+2)

#### 算数科

第3学年	県平均	85%	本校平均	89%	(+4)
第4学年	"	72%	"	78%	(+4)
第5学年	"	71%	"	81%	(+10)
第6学年	"	77%	"	85%	(+8)

国語科、算数科ともに、全学年において県平均を上回っている。  
また、CRT学力検査においても、ほぼ全国比を上回っている。

### 2. 今後の課題

- ・ 日常的な授業実践を深め、児童の学習スタイルや習熟度に基づいた指導を日常的に展開していくことが必要であること。
- ・ 家庭、地域・中学校との連携をより深めていく必要があること。
- ・ 国語、算数の2つの部会を構成したので、今後はそれぞれの部会の実践を交流しながら、教職員全員の共通理解の基に実践研究を進めていく必要があること。

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・ CRT学力検査（全学年／国語・算数）～12月上旬実施
  - ・ NRT学力検査（第4・6学年／国語・社会・算数・理科）～5月上旬実施
  - ・ 岩手県学習定着度状況調査（第3・4年／国語・算数）～10月2日実施  
（第5・6学年／国語・社会・算数・理科）～10月2日実施
- いずれの学力検査も児童一人一人の学習の定着状況を把握するとともに、学習指導上の課題を明らかにし、指導に役立てるために行う。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 平成15年10月22日に、学校公開研究会を実施（参加者数～328名）
- ・ 平成16年1月8日、北上市教育研究発表会において、研究成果を発表
- ・ 平成15年度末～北上教育事務所管内小・中学校にリーフレットを配付
- ・ 平成16年度予定  
父母、地域を対象とした本校の取組及び成果の普及  
連携中学校との合同研究会の開催

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無